

アルコール検知器協議会

(J-BAC: Japan Breath Alcohol testing Consortium)

第 2 回 定時総会

議 事 録

日時:2016 年 4 月 28 日 14:30~15:40

場所:あすか会議室(八重洲会議室) 303A

東京都中央区八重洲 2-2-1

ダイヤ八重洲口ビル 3 階

1. 出席者(順不同・敬称略)

【正会員】

企業名	出席者名	出席人数	議決権	口数
株式会社エスケイジャパン	野島 滋	1		
株式会社エスケイジャパン	飯島 典行	1	○	5
エフアイエス株式会社	常深 剛生	1	○	5
光明理化学工業株式会社	畑 慎一	1		
光明理化学工業株式会社	吉村 輝喜	1	○	5
サンコーテクノ株式会社	坂口 正一	1	○	10
サンコーテクノ株式会社	角谷 義隆	1		
株式会社タニタ	望月 計	1	○	10
株式会社タニタ	谷田 千里	1		
株式会社タニタ	上田 仁	1		
中央自動車工業株式会社	馬場 博信	1	○	10
中央自動車工業株式会社	浜本 謙	1		
テレニシ株式会社	東野 蔵	1	○	5
東海電子株式会社	杉本 哲也	1	○	10
株式会社東洋マーク製作所	山内 昌人	1	○	10
株式会社東洋マーク製作所	山本 篤	1		
ドコモ・システムズ株式会社	有田 好孝	1	○	5
ドレーゲル・セイフティー ジャパン株式会社	清水 絵真	1		
ドレーゲル・セイフティー ジャパン株式会社	齋藤 昌樹	1	○	5
株式会社ネモト・センサエンジニアリング	菅井 孝	1	○	5
株式会社パーマンコーポレーション	作井 崇洋	1	○	5
株式会社パイ・アール	椎葉 充	1	○	5
フィガロ技研株式会社	川畑 孝敬	1	○	10
フィガロ技研株式会社	宇高 利浩	1		
合計		24	15	105

正会員総数 17社(2016年4月28日現在)

準会員総数 2社(2016年4月28日現在)

[出席数まとめ]

正会員出席数 15社 24名(内、議決権保有者数15名)

議決権行使総数 105個

[欠席数まとめ]

正会員欠席数 2社(株データ・テック, 前野技研工業(株)) → 委任状受理

議決権行使総数 10個(※議長に委任される)

準会員欠席数 2社(株篠原計器製作所, 株メイエレクト)

2. 議事次第

- 1) 総会開催宣言・議長選任・総会の成立・議決権の確認
- 2) 本総会予定の説明
- 3) 谷田会長の挨拶
- 4) 報告事項
 - (1) 会員紹介
 - (2) 会計報告
 - (3) 協議会活動報告
 - ① 業務委員会から報告
 - ② 技術委員会から報告
- 5) 審議事項
 - (1) 第1号議案: 活動内容の承認
 - (2) 第2号議案: 2016年度予算の承認
 - (3) 第3号議案: 会則変更の承認
- 6) 質疑応答
- 7) 閉会

3. 議事進行

1) 総会開会宣言・議長選任・総会の成立・議決権の確認

坂口幹事が定刻に開会を告げ、初めに、会則、第5条1項⑫「総会の議長は、幹事会が幹事会の中から一名を指名する。」の規定に基づいて、坂口幹事が議長を務めることを説明した。

次に、総会成立の確認が行われた。本会は正会員17社のうち15社の出席が確認されており、過半数の正会員の出席により、会則案、第5条1項③の規定に則り、本総会は有効に成立したと認められたため、アルコール検知器協議会第2回総会の開会を議長が宣言した。

続いて、議決権の確認が行われた。第5条1項⑥の規定に則り、出席会社の議決権保持者15名、議決権行使総数は105個、又、欠席会社からの委任を受けた議決権行使総数10個と合わせ、議決権行使総数は115個となり、過半数58以上を持って承認されることを説明した。

2) 本総会の予定の説明

議長より、本日の総会の流れ(本議事 2. 議事次第 2) 谷田会長の挨拶 以降)について説明し、又、会員に事前配布されていた総会資料の第四号議案(一般社団法人設立検討開始の承認)を急遽上程取り消しする旨の説明があり、一般社団法人化は幹事会にて時期尚早と判断され、時期をみて改めて再考する考えであることが補足された。

3) 谷田会長の挨拶

(挨拶要旨)

- ・熊本地震で亡くなられた方々への哀悼の意と、被災者へのお見舞いが語られた。
- ・震災からの復旧・復興の努力が重ねられている状況の中で、第2回総会開催への御礼が語られた。
- ・運送事業者点呼時のアルコール検知器使用義務付けなど、飲酒運転撲滅に向けた取り組みが加速している一方で、飲酒に関連する交通死傷事故が相次いでいる。
- ・H27年に発生した飲酒事故は約4,000件、又、東京都内においては今年1-3月に発生した人身事故の内、当事者に飲酒やその疑いが有るケースが62件にのぼる。
- ・又、過度な飲酒による健康障害(生活習慣病、急性アルコール中毒・依存症など)の問題も依然深刻である。
- ・このように、飲酒運転の撲滅並びに適切なアルコール利用のサポートの両面において、アルコール検知器の役割は益々重要である。
- ・こうした中、当会はアルコール検知器の技術・品質の向上と、普及啓発による業界の地位向上を目的とした国内唯一の業界団体として昨年4月に17社の会員様と共に発足した。更に、本日第2回総会までに会員数は19社まで増え、当会への期待と責任を強く感じている。
- ・設立初年度(H27年度)は当会の公式ウェブサイトの立上げを通して、認知・普及活動に精力的に取り組んだ。又、当会活動の目玉となるアルコール検知器の検定化準備についても順調で、アウトラインまで策定できた。
- ・活動2年目となるH28年度は初年度の取り組みを活用の場に移すことが大きな目標となる。具体的には検定制度とその認定機器について関係団体への認知・普及を図ると共に、自主検定をスタートさせ、第3者機関検定への準備を加速させる。
- ・今年度も関係省庁や関係団体と協調し、アルコール検知器の普及、及び、技術・品質の向上、並びに、飲酒に関する正しい知識の啓蒙に積極的に取り組んでいきたい。
- ・当会会員各位におかれましては、引き続きご支援・ご協力をお願いしたい。

4) 報告事項

(1) 会員紹介

議長より、本日時点における会員は19社であると報告され、以下の通り読み上げられた。

株式会社エスケイジャパン(正会員)
エフアイエス株式会社(正会員)
光明理化学工業株式会社(正会員)

サンコーテクノ株式会社(正会員)
株式会社篠原計器製作所(準会員)
株式会社タニタ(正会員)
中央自動車工業株式会社(正会員)
株式会社データ・テック(正会員)
テレニシ株式会社(正会員)
東海電子株式会社(正会員)
株式会社東洋マーク製作所(正会員)
ドコモ・システムズ株式会社(正会員)
ドレーゲルセーフティージャパン株式会社(正会員)
株式会社ネモト・センサエンジニアリング(正会員)
株式会社パーマンコーポレーション(正会員)
株式会社パイ・アール(正会員)
フィガロ技研株式会社(正会員)
前野技研工業株式会社(正会員)
株式会社メイエレクトク(準会員)

(2) 会計報告(添付参照)

川畑監事より、H27年度(H27年4月1日～H28年3月31日)の収支決算書の内容を説明した。続いて、4月5日に東洋マーク製作所において事務局(松尾氏)立会いのもと実施した監査の結果を報告した。収入と支出に関わる関係書類・帳簿・証票などを審査した結果、会計処理は正確であり、先に報告した収支決算書は適正であると報告された。



収支決算・会計監査
報告.pdf

(3) 協議会活動報告

① 業務委員会 山本委員長より報告



160428_業務
活動報告.p c

昨年度は普及啓発WGとして活動した。今年度からは業務委員会と組織を改めて活動する。
◇昨年度の普及啓発活動方針は次の通り。

－飲酒問題に関する情報発信

HPの作成、一般ユーザー及び会員向け各団体機関誌への掲載要請

－飲酒運転及び知識に関する啓発活動

－アルコール検知器の必要性、及び、導入促進

－アルコール検知器の主要目的別選定方法や検定化WGとの連携

◇昨年度の普及啓発活動としては全5回のWGを開催し、次の取り組みを行った。

－アルコール検知器協議会のロゴを作成

- アルコール検知器協議会のリーフレットを作成
- 第 10 回 NASVA 安全マネジメントセミナーに出展し、会員希望の検知器を展示
- アルコール検知器協議会 HP の作成・開設
- 各関係団体(トラック協会,日本バス協会,国土交通省,全国ハイヤータクシー協会)訪問
各団体への啓発・ヒアリング活動の結果は主に次の通り。
 - ・当協議会の設立に対して好評で前向きに受け入れたい。
 - ・協議会のリーフレットや HP を用いて検知器の保守の啓発に取り組んで行きたい。
 - ・検定合格機種は、商品案内、及び、助成制度の対象にし易くなる。

◇H28 年度の業務委員会の活動方針は次の通り。

- H27 年度の活動方針を踏襲した普及啓発活動を継続的に推進
- アルコール検知器の社会認知度・注目度・信頼向上を目指す
- 展示会出展、HP 拡充、各種団体機関誌への掲載依頼
- 安全運転管理者協会との連携をとり、運輸業界と同じ取り組みを各企業に提案
- 普及啓発 WG(酒井 GL)の中で役割を細分化してチームを編成し機動力を高めスピーディーに活動
 - 編成チーム案> 広報チーム:展示会、HP 拡充
 - 白ナンバーチーム:一般企業への普及を目的とした活動
 - 緑ナンバーチーム:全ト協、日バス協、全国ハイタク協、NASVA との連携

②技術委員会 望月委員長より報告



160428_技術
活動報告.p c

- H27 年度は検定化 WG の会合を合計 7 回実施した。
- 検定草案(★)を策定し、国交省、全ト協、日バス協に報告した結果、好印象だった。
- 技術委員会の中に自主検定審査会を設置し、検定草案(★)にある自主検定運用時の認定審査を担う予定である。(第 3 者機関審査運用が始まるまでの処置)
- 技術委員会の下部組織として検定 WG(常深 GL)を設置し、第 3 者機関検定の制度化と検定草案(★★)の策定を推進する。
- 同じく下部組織として OIML R126WG(杉本 GL)を設置し、国際標準の動向確認、検知器の技術・品質の向上、検定草案(★★以上)への規格提言等を目的に活動する。
- 第 3 者機関における検定は 2017 年度第 2Q までに制度を策定して運用開始する計画。
- 第 3 者機関の選定は今年 6 月頃を目処に進め、価格交渉を実施して絞り込む予定。
次に、第 3 者機関における検定試験の立上げに向けて、クロスチェックを含めた試験・評価を計画している。
- 自主検定審査会のメンバーは旧検定化 WG のメンバー(11 社)で構成し、又、開催頻度は会員会社の申請から 2 ヶ月内に合否判定が出せるタイミングで開催する。
(アイデアとしては技術委員会と同時開催を検討している)
- 3 月の技術委員会において、検定草案の★の数について議論した。
非会員が販売する検知器は★がゼロ、このように、★がゼロと1つではかなり違いが有るのではないかという議論(★の有る意味は大きいという意味)になった。

従って、当初は★、★★、★★★の3グレードであったが、基本的には★、★★という2グレード体系を中心に進めて行きたいと考えている。
一検定制度については★がある意味というものを、業務委員会と協力して啓蒙に力をいれて活動して行きたい。

5) 審議事項

(1) 第1号議案: 活動内容の承認

事務局から会員宛に4/23にメールにて配布した本協議会の活動内容について、杉本幹事より説明があった。(添付参照)



2016年度活動内容(案).pdf

議長より、第1号議案に関する質問、意見について確認したところ、発言は無かった。
議長より、第1号議案: 活動内容の承認可否を諮ったところ、賛成多数で可決された。

(2) 第2号議案: 2016年度予算の承認

事務局から会員宛に4/23にメールにて配布した本協議会H28年度予算(案)について、杉本幹事より説明があった。(添付参照)



2016年度予算(案).pdf

議長より、第2号議案に関する質問、意見について確認したところ、発言は無かった。
議長より、第2号議案: 2016年度予算の承認可否を諮ったところ、賛成多数で可決された。

(3) 第3号議案: 会則変更の承認

事務局から会員宛に4/23にメールにて配布した協議会会則、及び、変更点を記載した会則新旧対照表について、議長より、質問、意見について確認したところ、挙手は無かった。



会則(案).pdf



会則(案)新旧対照表.pdf

議長より、第3号議案: 2015年度予算の承認可否を諮ったところ、賛成多数で可決された。

6) 質疑応答

議長より、総会全般に関して質疑をもとめたが特に無かった為、後日、質疑があれば個別に協議会事務局まで問い合わせるようにと説明された。

7) 閉会

議長より、アルコール検知器協議会第2回定時総会の閉会が宣言された。

以上